



なお知らせ！

第 26 号

平成 28 年 5 月 15 日発行

佐賀県聴覚障害者
サポートセンターだより

みみの記念日：3月3日耳の日 6月6日補聴器の日 9月9日人工内耳の日

九州史上最大の熊本大地震発生 4.14 4.16

九州ブロック本部立ち上げ＝聴覚障害者災害救護

熊本地方を震源として、4月14日21時26分M6.5最大震度7、4月16日01時25分M7.3最大震度7が発生。約90km離れた佐賀県でも5強の極めて強い地震がありました。熊本、大分地方では引き続き1200回を超える余震が続発しています。この地震による熊本県の聴覚障害者の死亡は幸いありませんでしたが生活全般に多大な影響が出ています。このため聴覚障害者災害救護九州ブロック本部が立ち上げられ手話通訳等の支援を行っております。

佐賀県でも聴覚障害者の安否確認等を行いました。負傷者や家屋の被害はなかったが、心の不安等を訴えられています。

家屋被害多く、余震不安 - 熊本県聴覚障害者の被災状況 -

熊本の情報提供センターで把握している被災状況は次の通り（4月26日現在）

- ・ろう者189世帯に連絡がとれ、軽傷3人、家屋被害91世帯（うちセンター（身障施設と同一となっている）へ7人（老夫婦2組、単身者）
- ・難聴者は難聴協会調べでは全員49人は無事。情報提供センターで23世帯、身体への被害はないが、家屋の被害9世帯、避難11世帯。



問題点として

- ・家屋被害が無くても、相次ぐ余震のため家で寝るのは不安で避難所か車中泊せざるを得ないこと。
- ・避難所での情報保障、医療、プライバシー等の確保が必要なこと。
- ・団体や施設などに所属している人については把握、支援ができるが所属していない聴覚障害者も多く、その支援が大切である。

日本障害フォーラム（JDF）等で被災障害者の支援を要請しています。

嬉野市塩田町の実家へ避難、操業時は車中泊、 熊本市居住のろう学校 OG

熊本大地震の震源益城町にすぐ隣接する熊本市東区居住、佐賀ろう学校 OGの淵野清美さん（46歳）が、5月1日（日）夕方センターを訪問され、今回の地震と恐怖の模様を生々しく語られた。

4月14日午後9時26分、熊本市内の映画館で「エベレスト」を観ていたら強烈な揺れがあった。映画の中の地震かと思った。映画館は無事だったが映画は打ち切りとなった。

4月16日午前1時15分は寝ていたが大きく揺れた。室内の家具は倒れた。それを持ち越えこわごわ脱出した。その際ガラスの破片で足を切り病院へ行った。アパートの水道管、ガス管はヒビ割れていた。この夜はアパートで寝ることは怖くてできず、車の中で寝泊まりをした。足もできるだけ伸ばしたり動かししたりしている。

4月15日すぐに福岡から息子が駆けつけてくれた。しかし、翌16日に地震があったので直ちに帰した。その後、仕事（JA果実連の工場も機械が大きく破損）が休みの間は嬉野市塩田町の実家に帰ってきている。連休明けの工場は復旧をめざしている。アパートの破損状況では当分車中泊となる。九州自動車道は開通したが混んでおり、みやま、大牟田、玉名の有明沿いを抜ける下道を2時間かけて往来している。

（東北震災の教訓から学ぶ（中・下）は後日掲載します。）

5月22日まで展示しています！

熊本大震災の記録

防災グッズ
Emergency Supplies



- 伝えたい だから あきらめない -

誕生日記念の有田焼のマグカップ
を持つ早瀬夫妻を囲んで記念撮影

早瀬
憲太郎
さん

センター開設3年目記念事業は参加者89名と大盛況でした。テレビや太で見聞きする御夫妻を目の前に会場の参加者も大興奮。あっという間の2時間でした。憲太郎さんは、やりたいことを次々とみつけチャレンジされた生き様を全身で表現されながら楽しく、また心に響きわたる手話で優しく語られました。久美さんは、薬剤師として、特に法改正により薬剤師免許を取得できた感謝の気持ちやスポーツファーマシスト（スポーツ専門薬剤師）のこりくみと責務、人との出会いの大切さを太陽のように明るい笑顔で語られました。あきらめないことの大切さ、聞こえるか、聞こえないかではなく、やりたいか、やりたくないかで決めることの意味を考えさせられるトークショーでした。



トークショー参加者へ熊本大震災被災者支援基金をお願いしたところ31,853円集まりました。全額全日本ろうあ連盟を通じて熊本県ろうあ協会等へ送られます。

早瀬久美さん トークショー

補聴器シリーズ② -補聴器の仕組み-



最近、目立たない小さな補聴器が多くなっていますが、補聴器の内部はどうなっているのでしょうか。図1は、補聴器の基本構造を示したものです。

図1

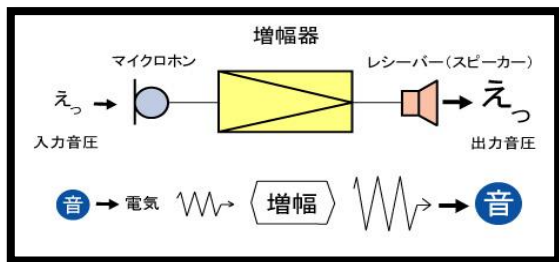
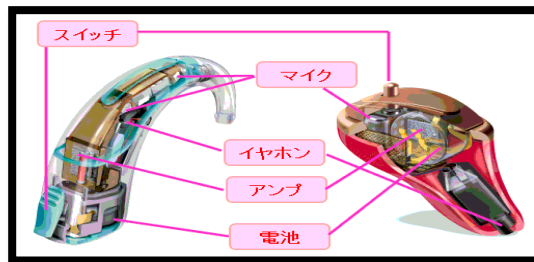


図2



まず、マイクロホンで外からの音を集めて、補聴器内に取り入れます。増幅器(アンプ)は集めた音を電気信号に変換、音を大きくして、音質を調整します。スピーカーは増幅・調整された音を鼓膜に伝えます。実際の耳かけ型補聴器・耳穴型補聴器の内部を覗いてみると図2のようになっています。補聴器をパソコンとつなぎ、装用者の聴力データ(聴力測定の結果)を入力したうえで、細かな音質の調整を行います。認定補聴器技能者や言語聴覚士がこれを担当しています。

引用: <http://www.hochoki-riken.jp/> <http://www.betterage-ha.com/>



多久聖廟恭安殿 (国指定重要文化財)

社会参加促進事業

〜多久聖廟・畜産公社〜

春風のゆるる 4月11日開催



参加者は聴覚障害者、手話通訳、要約筆記の情報保障者等含め計31名。多久聖廟では、今回のために特別に開扉いただき、天井図・聖龕の解体方法の秘話などを学んだ。佐賀県畜産公社での工場見学時では、常日頃食している牛や豚の衛生管理、処理から出庫までの流れなど、初めて見聞きすることばかりでした。

参加者は聴覚障害者、手話通訳、要約筆記の情報保障者等含め計31名。多久聖廟では、今回のために特別に開扉いただき、天井図・聖龕の解体方法の秘話などを学んだ。佐賀県畜産公社での工場見学時では、常日頃食している牛や豚の衛生管理、処理から出庫までの流れなど、初めて見聞きすることばかりでした。

世界文化遺産

見える『三重津海軍所跡』

昨年から要望していた三重津海軍所に字幕付きの映像がVRスコープに映し出された。

4月13日に現地で視察した聴覚障害者11名は「字幕はわかりやすい」「(文字による)情報保障は素晴らしい」と感激。聴覚障害者も楽しめる『(文字が)見える三重津海軍所跡』となっています。



手話通訳者養成講座開講

【通訳Ⅰ・通訳Ⅱ】

4月10日に受講生43名、講師、関係職員ら計54名が引き締まった表情で出席し開講式が行われた。本日より約半年間(約70時間)にわたる学習となります。

参加者募集

難聴者日曜教室

【日時】5月22日(日)13時~14時半
【会場】佐賀商工ビル4階(大会議室4-G)
【内容】①健康づくり教室
②カロリーソング体操
【参加費】無料
主催・申込先
佐賀県聴覚障害者サポートセンター

編集後記：緑が映え、過ごしやすい季節となりました。早くも夏の訪れを感じる今日この頃です…。



佐賀県聴覚障害者サポートセンター

〒840-0826 佐賀市白山二丁目1-12 (佐賀商工ビル4階)
TEL: 0952-40-7700 FAX: 0952-40-7705
メールアドレス: info@saga-mimisapo.jp
ホームページアドレス: <http://saga-mimisapo.jp/>

<開館時間>

9:30 ~ 18:00

9:30 ~ 20:00(水曜)

<閉館日>

毎週月曜日、祝日、年末年始

嬉野高校

手話甲子園めざす



第3回全国高校生手話パフォーマンス甲子園

は9月25日開催されます。初回は特別枠で出場した嬉野高校、2回目は予選落ちとなったが、今回さらにパワーアップして挑む。本選は8分間のパフォーマンス、予選はそのうちの3分間を撮影し動画を提出。全国から代表20校が選ばれます。予選審査会は8月9日(火)、提出する動画は7月に撮影。締め切りまで2か月を切った今、これまで以上に熱がこもった練習となっています。